



☆☆ ☆特集記事



◆◇◆ 阪神高速3号神戸線（京橋～摩耶）における19日間のリニューアル工事の報告 ◆◇  
（阪神高速道路株式会社）

阪神高速は、2023年5月に3号神戸線（京橋～摩耶）にて19日間の通行止めによるリニューアル工事を実施した。その際、リニューアル工事では、2径間のコンクリート床版の取替や鋼床版へのSFRC舗装などを実施した。また、本区間は神戸市の中心に位置し、通行止め時の交通影響を最小にするため、さまざまな交通影響対策を講じた。



☆☆ ☆道路占用Q&A



◆◇◆ 道路法第37条による占用禁止又は制限に係る当面の運用について ◆◇◆  
（国土交通省 道路局 路政課 道路利用調整室）

令和5年6月28日に発出された「道路法第37条による占用禁止又は制限に係る当面の運用について」の通知の内容について解説します。



☆☆ ☆TOPICS ○○○。.. ○○○。



◆◇◆ 新技術を活用した公共空間の安全と安全性の確保に係る実証実験 ◆◇◆  
（枚方市 総合政策部 企画政策室 政策推進課）

令和3年度に試行的に実施した事業において、地元の中学生から挙げた通学路の夜道が暗い」という問題について、解決策を見出すために逆プロポサービスによる公民連携の手法を活用して、市の予算支出なしで新技術の実証実験を実施。



☆☆ ☆地域における道路行政に関する取組み事例



★国道112号における「ほこみち」指定について★・\*:.。

**(国土交通省 東北地方整備局 道路部)**

近年、「道路空間を街の活性化に活用したい」「歩道にカフェやベンチを置いてゆっくり滞在できる空間にしたい」など、道路への新しいニーズが高まっています。

このような道路空間の構築をしやすいするため、第 201 回国会において道路法が改正され、新たに「歩行者利便増進道路制度」(以下「ほこみち」という。)が創設されました。(令和 2 年 11 月 25 日施行)

今回ご紹介する国道 1 1 2 号(山形県山形市七日町)における賑わい創出の取組については、ほこみちを利用したものとなります。本稿では東北地方の国道で初の試みとなった本取組を行うにあたっての流れや検討事項、今後の展開を紹介します。

.....

**★熊本県における世界的半導体企業等の集積に伴う道路整備について★°・\*∴。**

**(熊本県 土木部 道路整備課)**

熊本県では、県政史上類をみない規模である半導体企業の建設と、更なる半導体産業の集積による県政の浮揚を図るため、知事をトップとする「半導体産業集積強化推進本部」を設置し、円滑な受け入れに関する様々な取組みを進めています。

今回、取組みの一環である交通渋滞対策の計画にあたって、参考とすべく台湾の工業団地周辺の視察結果も含めて述べることにします。

.....

**★交通渋滞緩和の取組みについて★°・**

**(菊陽町 都市整備部 建設課)**

菊陽町においては、人口増加および企業立地などに伴い、町内全域で朝夕の通勤時間帯に交通渋滞が発生しており、渋滞対策は喫緊の課題となっています。特に、北部に位置する工場集積地「セミコンテクノパーク」への企業立地により交通量は急激に増加しており、また、世界最大の半導体受託製造会社である TSMC とソニーグループ、デンソーが設立した JASM (Japan Advanced Semiconductor Manufacturing 株式会社) による新工場建設により、さらなる交通量の増加が予想されます。

本稿では、交通渋滞緩和への対応として取り組んでいる、菊陽空港線延伸道路事業、南方大人足線交差点改良事業、原水駅北口バス転回広場整備事業について、ご紹介します。

┌┌┌┌

┌┌ ☆編集後記

.....

夏の風物詩のひとつ、花火大会。久しぶりに開催となった地域が多くあり、打ち揚げられる花火で夜空が彩られる光景を目にしようと、とても賑わったようです。わたしも、久しぶりに打ち揚げられた花火を鑑賞することができ、夏を感じるとともに、華やいだ気持ちになりました。また、久しぶりに聞く、「ドンッ、バーン、パピパッ」と響く音が心地よかったです。

花火の原料となる黒色火薬は、戦国時代に火縄銃とともにヨーロッパより伝来し、当初は鉄砲のほか、軍事的通信手段である「のろし」に用いられていました。現在のような、観賞用や遊び用の花火への利用は江戸時代に入ってからで、この頃は、橙色（炭化色）の強弱によって表現がされていました。明治時代に入って、塩素酸カリウム、ストロンチウム、アルミニウムといった新しい薬剤が輸入されるようになると、豊かな色彩が出せるようになりました。

花火は、色、音、煙、形状の4つの要素で構成され、火薬類の配合や組み合わせ、形状によってさまざまに変化させることができます。その種類は多く、一発ごとに玉名（ぎょくめい）と呼ばれる名前が付けられるようで、打ち揚がってから消えるまでの現象を表すものとなっています。例えば、「昇小花付八重芯変化菊」。堅苦しい感じもしますが、素直に「のぼりこばなつき やえしん へんかぎく」と読みます。上昇中にいくつかの小さな花が開き（昇小花付）、開いた花火が外輪を含めて三重の輪になり（八重芯）、2回以上色を変化させて光が尾を引きながら放射状に飛び散る（変化菊）ものとなります。

花火が花開く、その打ち揚げの頂点は「玉の座り」と呼ばれています。打ち揚げ筒から勢いよく昇っていく花火玉は、その上昇力と引力がちょうど釣り合ったところで一瞬止まり、そこが打ち揚げの頂点となります。この玉の座りでタイミングよく花火が開くことを「肩の張りがいい」、まん丸く真円球状に花火が開く様子を「盆の形がいい」と表され、花火師が目指す良い花火とされています。開いた花火すべての先端が一斉にパッと消えることもよしとされ、「消え口が良い」と言われています。

眺めているだけで十分楽しめる打ち揚げ花火ですが、玉名を想像してみることや、玉の座り／肩の張り／盆の形／消え口などを意識して見上げる花火鑑賞は、なんだか粋です。すぐに散ってしまうので、素人目にわかるものかわかりませんが、次に花火を見上げる機会には、目を凝らしてみようと思います。(U)